

休眠預金等活用法に基づく通常枠

「困難を抱え孤立する子ども・若者の社会的自立支援事業

～地域との連携・協働による参加体験型プログラムの開発と推進～」

実行団体選考結果報告

第三者機関である審査委員会の公正な審査選考を経て、以下の5団体を採択しました。

助成総額 49,972,526 円（事業費・3年間）

※ 別途評価関連経費（3年間）として 1,442,000 円

団体名	所在地	助成金額	事業名
特定非営利活動法人 フェアスタートサポート	神奈川県 横浜市	事業費 12,096,000 円 評価関連経費 550,000 円	児童養護施設等の子ども達の為のキャリア教育事業
特定非営利活動法人 横浜メンタルサービスネットワーク	神奈川県 横浜市	事業費 9,965,792 円 評価関連経費 345,000 円	医療・福祉・教育の挟間で生きづらさを抱えた、小・中・高校生支援
一般社団法人多摩区 ソーシャルデザインセンター	神奈川県 川崎市	事業費 6,715,450 円 評価関連経費 330,000 円	地域の若者が担う互助の支援により、不登校・引きこもりなどに対する居場所づくりと社会体験を行う事業
特定非営利活動法人 よこすかなかなかや	神奈川県 横須賀市	事業費 13,447,550 円 評価関連経費 392,000 円	子どもに寄り添い、学習と職業体験にフォーカスした自立支援事業
一般社団法人 かけはし	神奈川県 横浜市	事業費 7,747,734 円 評価関連経費 375,000 円	不登校の子どもと生きづらさを抱える若者の社会的自立に向けた活動

※実行団体から提出された業計画書・資金計画書に基づき、助成金額及び評価関連経費を算定します。

【選考を終えて】

「困難を抱え孤立する子ども・若者の社会的自立支援事業」には、9 団体（うち 1 団体は最終的に応募辞退）から応募をいただき、そのうち 8 団体からの提案事業について、本審査委員会のもと、事前ヒアリング及び審査を行った。

応募について検討する期間が短く、各団体とも苦心した様子が窺われたが、書類をもとに検討し、質疑応答、現地調査をさせていただくことで、これまでの実績、将来に向けた意欲、可能性に満ちた団体に応募いただけたことを、審査委員会として確認した。応募いただいた団体は、いずれも可能性に満ちたものであり、その中から選考によって助成対象団体を絞りこむのは難しい作業であったが、審査委員の皆さんのご協力で選定することができた。

子ども・若者の社会的自立を支援するという課題は、古くから存在するものであるとともに、極めて今日的な課題でもある。助成対象となった実行団体の皆さんには、地域との連携・協働によるプログラムの開発・推進に真摯に取り組んでいただくとともに、残念ながら選に漏れた団体の皆さんにも、それぞれのお立場でご努力いただき、子ども・若者の社会的自立が進むことを期待したい。

審査委員会委員長
白井 正樹

【審査委員会】

委員長	白井 正樹氏	(神奈川県立保健福祉大学名誉教授)
委員	田口 努氏	(公益財団法人日本 YMCA 同盟総主事)
	飛弾野 理氏	(神奈川県弁護士会 弁護士)
	西川 正氏	(特定非営利活動法人ハンズオン埼玉理事)
	根本 真紀氏	(社会福祉士)
	山岡 義卓氏	(神奈川大学経営学部特任准教授)

【選考経過】

神奈川子ども未来ファンドは、よこはま地域福祉研究センターとコンソーシアムを組み、一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) が実施する休眠預金等活用法に基づく通常枠の資金分配団体に採択された。これを受け、不登校、ひきこもりなど、困難を抱えて孤立している子ども・若者が、地域や社会との関わりを通し、自立していくためのきっかけとなる「地域の様々な主体と連携した参加体験型プログラム」を実施する実行団体を公募した。公募にあたっては、プレスリリース等を行い広く情報を提供した他、オンラインによる公募説明会を 12 月 22 日と 12 月 29 日に実施し計 15 団体が参加した。更に希望した 13 団体（重複あり）への個別相談を行うなどきめ細かく対応した。

その結果、助成総額 5,000 万円 (3 年間)、助成対象団体 4~5 団体に対し、9 団体 (横浜市 5、川崎市 1、相模原市 1、横須賀市 1、小田原市 1) から総額 96,501,366 円の応募があった。

これらの団体からは、困難を抱える子ども・若者のフリースクールの運営などの学習支援、

居場所・カフェを活用した社会的自立支援、農作業の活用したもの、大学生のネットワークを活用した社会体験活動、児童養護施設卒業後の就労支援等様々な参加体験型プログラムが提案され、選考基準に基づき審査委員会による厳正なる審査を経て、5団体に総額49,972,526円(3年間)を助成することを決定した。

【講評】

■ 特定非営利活動法人フェアスタートサポート

事業名：児童養護施設等の子ども達の為のキャリア教育事業

助成金額：12,646,000円（直接事業費+管理的経費+評価関連経費）

内訳	直接事業費	12,092,370円
	管理的経費	3,630円
	評価関連経費	550,000円

事業概要： 虐待や貧困等家庭の事情によって児童養護施設等の社会的養護下で暮らし、18歳で就職、自立する若者達の貧困化が問題となっている。団体が約12年間この課題に取り組む中で、その大きな要因は、仕事や就職先を本人自ら納得感を持って自己決定できていないことにあると考えている。

そこで本事業では、団体が保有する豊富な協力企業と連携し、社会的養護の子ども、若者達に実践的な就労体験の参加体験プログラムを実施、本人自身が仕事や就職先を自己決定できるように下記のキャリア教育プログラムを行う。

- ・本人個々の希望や特性を考えた見学体験先を共に考える個別就職相談
- ・職場見学、職業体験への調整および当日の伴走支援。
- ・体験での振り返りにより、本人の適性や興味、意欲などの自己理解を深める。
- ・本人の自己決定を尊重し、体験、インターシップの調整や就労への支援
- ・就労後、就職先、出身施設と連携したアフターフォロー

講評： 児童養護施設を退所する若者の自立には、家庭の支援を得られないことなどから、多くの困難が付きまといまいます。ミスマッチによる就職後の早期離職は、若者にとって経済的な問題を引き起こすだけでなく、人生に対するつまずきを感じる原因ともなります。施設入所中から見学や体験を通して伴走支援をすることで、ミスマッチを予防し、安定した就労につなげるという事業目的は、本助成の趣旨に合致しています。より多くの若者が手厚い支援を受け、キャリアを切り開いていくことを期待しています。

■ 特定非営利活動法人横浜メンタルサービスネットワーク

事業名：医療・福祉・教育の狭間で生きづらさを抱えた、小・中・高校生支援

助成金額：10,310,792円（直接事業費+管理的経費+評価関連経費）

内訳	直接事業費	9,965,792円
	管理的経費	0円
	評価関連経費	345,000円

事業概要： 医療、福祉、教育の狭間で、学校生活や社会生活に馴染めず、生きづらさや悩みを抱える中高生を対象に、安心できる場と信頼できる大人がいる放課後の居場所

「Irodori」を運営してきた。本事業では、「Irodori」の開設時間を日中に拡大し機能を更に充実させる。

精神保健福祉士や作業療法士、臨床心理士など専門性のあるスタッフを配置し、参加者個々との日常のやり取りの中で、困りごとを見つけ、対処方法を一緒に考え、その子にとってやりやすい方法で、信頼関係づくりや仲間づくりに取り組むことで、家や学校以外の安心して過ごせる場を得ること、そして、スタッフや同世代の仲間と様々な体験を重ねることで対処力を高め、他者への共感性を養うことを目的としている。

また、地域の中学校からの「教室に入れないうちの子が多くいるので、学校の近くで居場所を実施してほしい」という要望があり、出張型「Irodori」を開設する。地域に参加しやすい居場所をつくることで、スタッフや地域の人と出会いや経験を通し、不安を和らげ、将来的には、居場所「Irodori」に参加できるようにする。

本事業の取組みの効果、当事者の声、日常プログラムの紹介、事例紹介、対応方法、コミュニケーションの取り方を可視化した「地域型子ども支援ガイドブック」を作成し、関係機関へ配布する。

講評： ボランティアなど多くの方々に支えられた堅実な支援実績を前提に、さらに専任スタッフを置き、支援のステップアップを目指す取組みであると考えます。これまでの具体的な活動基盤があり、その延長上での企画であることから、計画に継続性、持続性があると判断しました。また、「地域型子ども支援ガイドブック」の作成を目指すなど、他の地域社会でも、同じような生きにくさを感じる子どもの支援の輪を広げようとしています。課題を社会の中で捉え、社会を変えていこうとする試みに期待します。

■ 一般社団法人多摩区ソーシャルデザインセンター

事業名：地域の若者が担う互助の支援により、不登校・引きこもりなどに対する居場所づくりと社会体験を行う事業

助成金額：6,715,450円（直接事業費+管理的経費+評価関連経費）

内訳	直接事業費	6,715,450円
	管理的経費	円
	評価関連経費	330,000円

事業概要： 多摩区ソーシャルデザインセンターの活動の主体は地域に暮らす、また通学する大学生である。明るく楽しくボランティア活動ができると参加する大学生が増え、「若者の居場所」と称されるようになった。そこでわかってきたことは、集まってくる学生の中には不登校・引きこもり経験者、予備軍が多くいるということである。活動に参加することで、同世代とのコミュニケーションが深まり、信頼関係が生まれ、主体的に地域で活動し、地域とのつながりが生まれている。このような、支援の色がなく、多くの孤立しがちな若者に届き、同世代として共に活動できる場を提供することが、不登校、ひきこもりの予防や社会的自立にもつながる。

本事業では団体の既存の活動の場である、子ども食堂、カフェなどの居場所を活用し、不登校、ひきこもり、その予備軍であるこども・若者をに対して、学生たちの強みを活かした参加体験型プログラムを実施、学生スタッフが中心となり当事者たちの社会的自立をサポートしていく。また当事者たちが参加体験型プログラムを通してサポートする側へと成長し、次の世代を地域で受入れ支え合い育ち合うサイクルを構築することを目指す。

講評： 学生を主体とした支援組織として、ネットワークを生かし地域に出た活動の中から出会った新たな課題に主体的にコミットしていきたいという積極的な思いを評価します。持続可能な取り組みにするためにも、学生やスタッフだけでなく、さまざまな専門家も含め人々が支えあう地域づくりを期待します。今回の取り組みでは事業対象を広く見すぎずに特化し、それに伴って活動も絞りながらしっかりと取組みの軸を育てていってください。

■ 特定非営利活動法人よこすかなかながや

事業名：子どもに寄り添い、学習と職業体験にフォーカスした自立支援事業

助成金額：13,839,550円（直接事業費+評価関連経費）

内訳	直接事業費	11,439,490円
	管理的経費	2,008,060円
	評価関連経費	392,000円

事業概要： 当法人は学校や教育委員会、児童相談所、警察、保健所等とも直接連携し、子どもたちの「今の心と命を守る」を理念に、毎日、朝食、夕食を提供する子ども食堂、また、食堂に来ることのできない家庭にはフードパントリーなどを行っている。

子ども食堂に通う孤立しがちな子どもたちの背景には、親に暴力を受けている、学校でいじめにあっている、学校や家庭に安心できる居場所がない、生活困窮等で生活習慣が乱れがち等、厳しい家庭の現状がみえる。

本事業では、これらの家庭環境から孤立しがちで学校に通えない子どもに加え、学校には通っているが自宅では勉強できない子どもや、生活困窮などから学習塾等を利用できない子どもも対象に、子どもたちが安心して学べるフリースペース的な機能を持たせたフリースクールを開校する。

学校や家庭から離れ、安心できる場で、子ども一人一人の学力にあわせた学習支援を行う。また、子どもたち同士で遊んだり、将来に向けて生活に欠かせないお金に関する授業や性教育等もあわせて行っていく。さらに近隣の農家や企業と協力し、子どものそれぞれの状況にあわせた職業体験を実施する。これらの体験活動や学習をとおして、基礎学力、基本的な生活習慣、他者とのかかわり方を身につけ、自立へ向けて生活する力を養う。

講評： 子ども食堂などを通じて出会った子供たちを目の前にして、不登校や学校に行きづらく家庭にも居づらい子の昼間の居場所を確保したい、学習を支援したい、様々なことを体験できる場所を作りたい、という熱い気持ちが伝わってきます。この事業を通じて生まれる活動の場が安定した運営体制を構築することで、多くの人々に支えられるとともに子どもたちにとっていつでも SOS の出せる日常の安心基地となっていくことを期待しています。

■ 一般社団法人かけはし

事業名：不登校の子どもと生きづらさを抱える若者の社会的自立に向けた活動

助成金額：8, 122, 734円

内訳	直接事業費	6, 594, 848円
	管理的経費	1, 152, 886円
	評価関連経費	375, 000円

事業概要： 学校現場が多忙を極める中、地域のつながりまでも希薄になった今の社会においては、生きづらさを抱える不登校の子どもたちや若者の一人ひとりに寄り添った支援を学校現場だけで行っていくことには限界がある。

本事業は、地域の中にある5カ所の農園を活用し、農園活動を地域の方と一緒にを行い、交流することを通して、人間関係力を高め、社会的自立を図ることを目的とする。

不登校の子どもたちや生きづらさを抱えた若者の心身の状態など事前の見取りを重視し、心身の健康に対する課題や、自信がもてず社会との接点を見出せない課題に対して、個々の状態に寄り添った伴走支援しながら農園活動を体験していく。そこで心身の健康を増進し、本人のやりたいという気持ちを大切にしながら自己肯定感を育むことを重視する。例えば失敗体験には失敗の価値を伝え、次の成功につなげるにはどうしたらいいか一緒に考え成功体験につなげられるよう支援し、自己肯定感を育てていく。

さらに、こども・若者の育ちや学びを地域で支えながら、こどもも大人もお互いを認め合い、個性・多様性を尊重し合う人間関係を築き、「共生する社会づくり」を目指す。

講 評： 学校現場での経験を踏まえて、不登校の子どもたちの居場所づくりを明確なビジョンのもと丁寧に進めていること、また、関係者とのネットワークづくりや支援獲得のために精力的に行動していることを高く評価します。

農園活動は、自然とのふれあいを通して学びに資するというだけでなく、地域の方と交流する機会や、収穫物の活用等、事業の広がりにつながる可能性を含んでいます。この活動が軌道に乗り、子どもたちの未来への“かけはし”となることを期待します。

<採択されなかった団体への通知文>

■ 特定非営利活動法人ヒューマンフェローシップ

事業名：にこまるソーシャルファーム

意見：よこはま型若者自立支援塾を長年にわたり受託し、実績と成果を上げてきたことは評価できます。不登校・ひきこもり経験者などへ農作業を通した宿泊型の参加体験型プログラムを提供する申請事業は、これまでの実績等から着実な取組みが期待されますが、従来事業の延長の感が強く、新たな取組みの工夫などの新規性が弱いことや助成金終了後の事業継続を見通すことができませんでした。本助成では対象外となりましたが、工夫を重ねてぜひ継続していただきたいと願っています。

■ 特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

事業名：マイターニングポイント事業

意見：豊かな里山環境を生かした取組みを継続され、実績と成果を上げてきたことを評価いたします。不登校・ひきこもり経験者への農作業を通した参加体験型プログラムは、これまでの取組実績から成果が期待できるころではありますが、申請事業は従来事業の延長の感が強く、新たな取組みの工夫などの新規性を十分読み取ることができませんでした。本助成では対象外となりましたが、工夫を重ねてぜひ継続していただきたいと願っています。

■ 特定非営利活動法人フリースクール鈴蘭学園

事業名：不登校・ひきこもり等の子ども・若者に対する支援事

意見：フリースクールの活動を中心に一人一人の状況に応じたきめ細かな対応で実績を重ねていることを評価いたします。このたびの提案事業は、これを発展させる堅実な内容となっていますが、アウトリーチ活動の充実などの考え方は理解するものの、従来路線の延長の感を拭えないことや、学校との関係づくりの課題も見受けられ、具体的な成果を十分読み取ることができませんでした。本助成では対象外となりましたが、工夫を重ねてぜひ継続していただきたいと願っています。